

メール

「一人ひとりを大切に、違いは宝物」元気で笑顔あふれる学校

にしおか

NO.4



豊中市立西丘小学校「学校だより」平成30年(2018年)6月27日発行

「メールにしおか」のカラー版は、ホームページをご覧ください。http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/nisioka/

今回の地震で被害に遭われた方に心よりお見舞い申し上げます。

6月18日(月)朝、校門を開けようと上門に向かっている丁度その時、突然地面から突き上げのような大きな揺れと、「ゴーツ」という地鳴りを感じました。近くのマンションから「ガタガタ、ガッシャー」とガラスの割れる音が聞こえ、これは大きな地震だ!と直感しました。揺れは幸い短時間で収まりました。すぐに門を開け、子どもたちをそのまま運動場に避難させました。防災無線で警報や放送が響き渡り、緊迫した空気に包まれました。職員で通学路を見て回り登校途中の児童を誘導し、運動場ではクラスごとに並べました。「子どもは無事学校に着いたのか!？」心配して多くの保護者の皆さんが様子を見に来られました。「臨時休業と自宅待機」の連絡をしたかったのですが、学校連絡メールの配信ができません。たくさんの保護者の皆さんがLINE等で「無理に登校しなくてよい」「この後引き渡しになる」ことを伝えてくださいました。児童の登校状況を確認した後、来られている保護者から順にお子さんの引き渡しを始めました。そして、8:40やっと連絡メールを配信することができました。

エレベーターが止まる、電車が止まる、家の中では物が落ちる、倒れる・・・それぞれに大変な状況の中、保護者の皆さんのご協力のお陰で大きな混乱もなく、登校していた全員のお子さんを無事お家に帰すことができました。迎えが遅くなる場合も「あと1時間」「お昼頃に」と連絡をいただいたので安心して待つことができました。マンション内、ご近所同士で連携し合い地域で子どもの安全を確保していただいたとも聞いています。特に、地区安全委員会の皆さんには地域の安全確認など進んで協力を申し出ていただき、大変有り難かったです。

保護者や地域の皆様のお力添えのお陰で、大きな混乱もなく、無事緊急時の対応をすることがで

緊急時引き渡しについて

原則保護者に引き渡すことになっていますが、どうしても迎えに来られない状況も起こりえます。今回も、保護者と直接連絡が通じた場合に限り、代理の方にお子さんをお預けする措置を取りました。いざという時助け合えるつながりがあるのは安心です。ただ、どんなに迎えが遅くなったとしても学校で責任を持ってお子さんをお預かりしています。慌てずに対応してください。非常時はお互いが協力し、助け合って乗り切りたいと考えています。

あいさつで
あいてより
いつも
さきに やさしいきもちを
つたえよう



にしおかしょうがっこうの子 

にこにこ えがおが あふれる 子
しっかり まなび かんがえる 子
おもいやりが あり やさしい 子
からだと ころを きたえる 子

新校舎に感謝です。

今回の地震で、他校では窓ガラスが割れたり、渡り廊下が使用不可になったり、天井が剥がれたり校舎への被害が出ています。それに引き換え西丘の新校舎は一昨年完成したばかり。校舎内は倒れるものも落ちてくるものもなく、本当にしっかりした耐震でした。19日(火)余震が心配される中の登校に不安の高い子どもたちもいましたが、「この校舎は豊中一安全だからね」と話すと「あー良かった」と安心してくれました。ただ、いつ起きるか分からない地震に対し常に危機感を持ち、高いところに物を置かない、避難経路となる廊下に倒れてくるものを置かない等、より安全な環境を整えるよう努めていかなければなりません。

プール・体育館は・・・

プールでは、シャワーパイプ周りのコンクリート片が落下、更衣室・シャワーの壁に亀裂があり、業者の点検を受けました。強度的には問題ないとのことでしたが、念のため補修工事をしていただきました。21・22日と工事をし、金曜日午後完了しましたので、今週月曜日から水泳指導を開始しました。

体育館では、入口庇の塗料部分が剥がれ落ちそうになっている所が何か所もありました。プール同様に点検を受けました。放置しておく危険性があるとのことテラス部分も含め補修工事を行っています。落下しそうな所は全て削ってもらいました。

～こころのケアが必要です～ (大阪府こころの健康総合センター)

ひとりでは対処できないような突然の衝撃的な出来事を体験した時に負うこころの傷をトラウマと言います。子どもはトラウマを受けた時、大人以上に激しい衝撃を受けることがあります。子どものトラウマ反応は、一見「わがままな行動」に見えることもあります。周囲の大人がトラウマによる反応を正しく理解し、適切に対応してあげることが大切です。



保護者及び身近にいる方々へ (子どもたちはあなたを必要としています)

- まず子どもを安心させてあげましょう。(守られているという感覚は回復の助けになります)
- 話をじっくり聞いてあげましょう。(気持ちを受け止めるだけでも安心感を取り戻します)
- 子どもの活動の場をできるだけ確保しましょう。(子どものペースに合わせましょう)
- ご自分へのいたわりも大切に (何とかしなければと一人で頑張りすぎないようにしましょう)

※裏面に資料を載せています。